

東邦大学学術リポジトリ



OPAC

東邦大学メディアセンター

タイトル	東邦大学健康科学部 第1回教育ワークショップ報告
作成者（著者）	2017年度FD委員会
公開者	FD 委員会 研究推進検討会 (東邦大学健康科学部)
発行日	2018.06.30
ISSN	24343838
掲載情報	東邦大学健康科学ジャーナル. 1(1). p.71 72.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	資料
著者版フラグ	publisher
メタデータのURL	https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD72352265

東邦大学健康科学部 第1回教育ワークショップ報告

「健康科学部での教育ことはじめ」

—健康科学部の初年度における教育の連携・協働のあり方—

2017年度 健康科学部 FD 委員会

I. 趣旨

健康科学部の開設初年度を迎え、これまで開設にむけて準備・計画されたことが実際に動き出した。しかし、準備・計画されたことを現状に合わせて実行する上において、いろいろなギャップや困難が生じることが予測される。また、先輩のいない1期生においても4年間の学習を積み重ねていくためにいろいろな困難が予測される。こうした新設初年度の学部運営における困難や工夫について、1期生の特徴について、準備室から1期生の卒業までの経験を知ることを通して、初年度の学部運営について検討したい。

また、健康科学部の特徴である3つの看護領域が運動・協働した教育体制を構築するにあたり、各領域・各専門分野の特徴を互いによく知ることが重要であると考え。初年度の学部運営の基盤固めの時期として、各領域・各専門分野の教育方針や到達目標、それぞれの専門領域において大切にしていきたい学習内容、他領域・専門分野との繋がり、接点についての意見交換を行い、共有することを通して、教員の相互理解や協力体制づくりの検討を行いたい。

II. 開催日時・場所・参加者

- 1) 日時：平成29年9月21日（水）
13時～16時30分
- 2) 場所：健康科学部棟 K101 教室
- 3) 出席者：健康科学部教員12名、平成30年度以降着任予定教員8名、健康科学部教務事務4名

III. 内容

- 1) 講演「新学部における学部運営の課題と対

応一学部立ち上げから1期生卒業までの体験をもとに一」

講師：順天堂大学保健看護学部 名誉特任教授 稲富恵子先生

東邦大学と順天堂大学の建学の精神／学是、教育目標、教育・カリキュラムの特色の比較、および東邦大学健康科学部と順天堂大学保健看護学部の学部設置の基本計画の比較をもとに、両学部の共通点とそれぞれの特色を示された。次に保健看護学の完成年度までの体験をもとに以下の事柄について説明された。①定員割れをしないための取り組みとしての広報活動の実際、1回生の看護師国家試験合格率100%を目指す取り組み、新任教員研修の開催、②教員の研究力向上のための学内研究会の開催、順天堂保健看護研究誌の創刊、③3年目を迎えた保健看護学部の取り組みとしての他学部との連携、医学部附属病院との連携・協力、最新のシミュレーション教育機器を活用した学内演習、ナースングセレモニーの実施、指定規則変更による新カリキュラムの始動。最後に完成年度を迎え大学院修士課程の設置の検討内容が示された。

2) グループディスカッション「健康科学部における3つの看護領域の連携・協働のあり方」

(1) グループディスカッションの進め方

①3G編成にて、各看護領域の専門性・特徴についてグループメンバーに説明と質疑応答、ディスカッションにより他領域との共通点を確認する（60分）

②各領域で集合し、話し合いの内容を共有し、自領域の専門性、他領域との共通点や連携の方向性について確認する（10分）

③まとめの発表

(3) 3看護領域の専門性と特徴

①トランスレーショナル看護領域

【ワンフレーズ領域紹介】

看護の精神（見方・考え方・姿勢）と根拠ある看護技術を実践する力を育み、成人期の対象を中心に個人の健康を支援する看護を探求する領域である。

【領域の教育を通して学生に伝えたいこと】

看護の対象の生活と健康のレベル、対象の生き方を大切にしたい看護の方法（個人に合わせて、その健康を支える臨床看護の知識技術を提供する方法）を考えることができるようになってほしい。

そのためには、学んだ知識を利用し、根拠ある看護援助を見出す。学んだ内容を基にし、発展的に思考し、自己学習を勧めて欲しい。看護をぶつ切りに捉えるのではなく、連続性のあるものとしてとらえる視点と技術を持ってほしい。

②ファミリーヘルス看護領域

【ワンフレーズ領域紹介】

母性看護学、小児看護学、精神看護学から構成され、リプロダクティブヘルスの観点による母子とその家族、あらゆる健康レベルの子供と家族、こころの健康について援助を必要とする人とその家族を対象としている。

【領域の教育を通して学生に伝えたいこと】

- ・健康レベルや発達段階をふまえて対象者と家族にとっての「最善の利益」を考えることができる。
- ・対象者や家族がもつ価値観の多様さを理解し、その背景にある生活環境（成育歴など）を理解できる。
- ・社会背景・情勢もふまえた最新の幅広い知識を活用しながら、（対象者や家族の状況について）アセスメントすることができる。
- ・他職種との連携の中での看護の位置づけを理解し、対象者とその家族に必要なチーム医療を考えることができる。

③コミュニティヘルス看護領域

【ワンフレーズ領域紹介】

広さ深さを探究し続ける領域である。「広さ」とは、地域・環境を対象とする領域であることを表現している。「深さ」とは、出生から死、健康な人々から療養する人々、さまざまな健康レベルにある対象者の暮らしむきに関心をもつことを表現している。

【領域の教育を通して学生に伝えたいこと】

対象となる人が、どうしたいのかを聴き、その思いを真摯に受けとめ、対象となる人が大切にしていることを大切にすることができる、そしてそれらを周囲の他者とも共有できるよう言語化し、共に対象者に広く深くかかわっていくことの大切さを伝えていく。

そのために、あらゆる教養への関心を持ち、さまざまなことにチャレンジした経験からの学びを通して、自身の専門性を深めるチャンスとする重要性を伝えていきたいと考える。

そして、まずは自分が大切にしていることを言語化すること、自分が感じ考えていることを言えるということからスタートする。

3) まとめ

1G：各領域の共通点として「その人の暮らし向き」を根底している部分があるとの共通認識が図れた。

2G：トランスレーションをすることに関して、どのように具体的に行っていくのかについてディスカッションをした。トランスレーションをどう解釈するかから始め、連続性を持たせるというところに焦点が当てられた。重複している部分や抜け落ちた部分がないように全体を見ながらプログラムを考えていくしかないとの意見でまとまった。

3G：各領域が大事にしたいところなど共通点などは違和感なく繋がった。対象者の最善の利益を大事にしながら取り組んで行く必要があるとの意見が出された。